

科目名	特別講座 2							年度	2026
英語科目名	Special Lecture 2							学期	後期
学科・学年	情報処理科 1年次	必/選	選	時間数	15	単位数	1	種別※	講義
担当教員	企業からの特別講師	教員の実務経験		有	実務経験の職種		IT関連職種		
【科目の目的】 本講義の目的は、学生が最新の技術動向を業界のプロフェッショナルから学び、見識を広げることである。IT技術は転換期にあり、今後求められる人材には知的好奇心を持ち、関心のある分野について深く探究できる能力が必要である。また、昨今は多様性が重視されており、学生とは異なる環境にいる人との交流を通じて、多様な価値観を理解することも重要である。本講義では、学生の知的好奇心を刺激し、他者に対する想像力や発想力を養う機会を提供する。									
【科目の概要】 本講義では外部講師による講義を実施するため、各講義ごとに「事前調査」「聴講」「聴講結果報告」の3つのユニットで進める。聴講内容の理解を深め、有意義な経験とするため、事前調査は必ず行い、特に重視する。また、授業時間外での自主的な予習も奨励する。学生は知識を定着させるため、聴講内容を単に終わらせるのではなく、必ず聴講結果レポートを作成することが求められる。さらに、外部環境との関わりを意識したビジネススキルの向上に取り組み、受講マナーについても指導を行う。									
【到達目標】 学生が本講義を聴講することで、最新技術動向に深い関心を持ち、主体的に勉強会やカンファレンスなどに参加するようになることを目指す。さらに、就職活動においては、学生自身が目指す業界や人材像を明確にする手助けを行う。ダイバーシティが求められる時代に対応し、多様な価値観を持つ他者に対して想像力をもって接し、思いやりをもって対応することを目指す。また、聴講レポートの作成を通じて文章作成能力を向上させ、情報を整理して発表するための論理的思考力を養うことも重要な目標である。									
【授業の注意点】 本講義では、学生が主体的に学習する姿勢を重視する。具体的には、事前調査の精度や外部講師への積極的な質問、講義への関わりが評価のポイントとなる。聴講後のレポートには、単に聴講内容を羅列するのではなく、自分の考えや新たに学んだことを調査結果として記載することが求められる。また、講義には出席するだけでなく、社会に出ることを意識した受講マナーを守って授業に参加することが必要である。ただし、授業の出席が4分の3以上ない場合は、成績を評価できない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル3 優れている			レベル2 ふつう				レベル1 要努力	
到達目標A	最新技術動向に深く関心を持ち、主体的に勉強会に継続的に参加している			最新技術動向に関心を持ち、勉強会に参加したことがある				最新技術動向に関心を持たず、主体的に勉強会に参加したことがない	
到達目標B	最新技術動向に深く関心を持ち、主体的にカンファレンスに継続的に参加している			最新技術動向に関心を持ち、カンファレンスに参加したことがある				最新技術動向に関心を持たず、主体的にカンファレンスに参加したことがない	
到達目標C	就職活動をする上で自らの目指す業界、人材像を定めることができる			就職活動をする上で自らの目指す業界を定めることができる				就職活動をする上で自らの目指す業界、人材像を定めることができない	
到達目標D									
到達目標E									
【教科書】 本講義では、レジュメや資料を配布する。また、参考書や参考資料については、各講義ごとに指示を行う。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 授業内容の理解度を確認するため、レポートを作成する。授業時間内に行われる発表の方法や内容も評価対象とする。さらに、積極的な授業参加度や授業態度に基づき評価を行う。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

